

# 3 March 2014 第719号 平成26年3月1日発行 (毎月1日発行)

# あかむ

[広報] Public Relations SAMEGAWA

村長さんに質問です



【特集】鮫川村こども模擬議会

## 初めての議会

あかむ  
Public Relations SAMEGAWA

3 March 2014

平成26年3月1日発行 (毎月1日発行)  
第719号 (毎月1日発行)

発行/鮫川村 編集/鮫川村生涯学習課  
〒963-9401 鮫川村鮫川大字赤坂中野字新第 59 番地 5

金婚を迎えたご夫婦を紹介



半世紀の歩み  
Episode\_10

蛭田康之さん キヨさん

渡瀬字福原在住/昭和38年12月結婚

**結** 婚生活50年間の1番の思い出は新婚旅行で穴原温泉に行ったことと話す蛭田さん夫妻。この当時としては、新婚旅行は珍しかったと言います。

農業を営んでいた康之さんは、稲作や養蚕、畜産、炭焼きなど年間を通して休みなく働いていました。それを手伝っていたキヨさんは「蚕が

嫌いだった。それでも手伝わないわけにはいかないから嫌々やっていたよ」と話します。その隣で笑う康之さん。今ではいい思い出になっています。

現在は、高校生のお孫さんの送迎が日課になっています。また、「高校を卒業した孫たちがお湯入りに連れて行ってくれることが、今の楽しみ」と笑顔がこぼれました。

こちら  
村長室

▼「歳月人を待たず、光陰矢の如し」。年月はどちらも瞬時もとどまらず、速く過ぎてゆく例えである。▼今年も新年のあいさつを交わしているうちに二月立春を迎えた。一日一日を大切に過ごさなければと思う。春には子どもたちの旅立ち、そして入学と多くの別れと出会いがある。大きな夢と希望を持ち旅立つ村の若者たちが、それぞれの分野でのびのびと羽ばたいてくれることを願わずにはいられない。▼昨年暮れには悲しい別れがあった。名誉村民・佐藤大助氏のご逝去された。通夜、告別式と参列させていた。十五歳で東京に出て以来、七十四年間であれほど多くの人たちとの出会いがあったのだろう。千人を優に超す参列者、故人のお人柄とその業績をうかがわせるものだった。誰もが偉大な恩人を失った深い悲しみの中での葬儀であった。▼故人には私自身も何度か褒められ、励まされて成長させてくれた。人を認め、成長させてくれた故人に心から感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

大樂勝弘